

萬之扣

8702

2

國立中央圖書館

三つ	八月
二つ	九月
一つ	十月
一つ	十一月
一つ	十二月

古き書屋にありし書は、
 近年文庫大御所は、
 三つ

天保十八年
 十一月

所蔵
 所蔵

古き書屋にありし書は、
 近年文庫大御所は、

三つ

三つ

三つ
 二つ
 一つ
 一つ
 一つ

三つ

三

江戸府内山崎

一 江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

江戸府内山崎

元

飯沼恒吉
於大藏八郎
小計六八
川崎重吉

一 米三斗五升

六月歌うらふり
日数六二二斗五升五合

右に五斗五升より所授けり日割りには一法なり
西に五斗五升より

元月

臨公儀

所授けり
所藏

右に文政十一年六月より所授けり日割りには一法なり
左に五斗五升より

元

伊豆三郎
信長より

一 米三斗五升

一 米三斗五升

二月九日の海りより
日数六二二斗五升五合

一 米三斗五升

右に二斗五升より所授けり日割りには一法なり

元月

臨公儀

所授けり

所藏

右に天保二年正月より所授けり日割りには一法なり

元月

さん

江戸中野区人
ヨシタチヨシ

一 米三石五斗五升五合一

石五斗五升五合一 力田校持の従法家公家宮

山田家

卯辰月

臨公儀立書

山田家

中藏

古書に徳言一通の徳言酒代に徳言毎身十
石五斗五升五合一 力田校持の従法家公家宮

而も花利古飲山校持の徳言の徳言酒代に徳言毎身十
石五斗五升五合一 力田校持の従法家公家宮
山田家
山田家

元

山崎虎之入
田中

一 長八廿四日

七月廿四日
田中

右 長八廿四日
田中

田中

田中

右 長八廿四日
田中

元

山崎虎之入
田中

一 長八廿四日

右 長八廿四日
田中

田中

田中

田中

田中

田中

上野縣家より臨時

百餘人宛書

天仁寺

右名宛手紙より多所所へ在座より書くことあり

辰八月

運心師

役不

上野

龍光寺

前書より通火消火修繕の改

上野運心師様より在座より宛てた手紙より御返事初見より

上野山依りて近所所へ在座より宛てた手紙より御返事初見より

上野山依りて近所所へ在座より宛てた手紙より御返事初見より

南野山より

龍光寺

上野山依りて

近所所へ

一 和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録
 名簿に左様記述あり 和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録
 和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録
 和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録
 和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及
 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及

和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

和衣火所焚滅し及 去田運八市様より左紙に録

辰六日

松井三郎

吉言

所役所

所役所

一 松井三郎は公方吉言を以て松井三郎

入爲之儀は公方吉言に依りて日教公方吉言に依りて

辰八日

松井三郎

吉言

所役所

所役所

一、此書最痛者於難治者先立連日數人十日後一治
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入

辰月

松井三合郎

即
 所
 後
 所

一、廿三人

右、此書最痛者於難治者先立連日數人十日後一治
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入
 其症之重者欲作書保付人其病入湯中其病入

即
 所
 後
 所

松井三合郎

心書方は能くする

一 松山より直に松山より書上り入る事一もふり
より直に松山より書上り入る事一もふり
心書方は能くする

辰土月

胎ふ儀に事

心書方
所役所

心書方は能くする

一 松山より直に松山より書上り入る事一もふり
より直に松山より書上り入る事一もふり
心書方は能くする

辰土月

胎ふ儀に事

心書方
所役所

常備金所収金

〆

一 常備金所収金

常備金所収金

金信

代金

金信

右通金信

金信

金信

金信

辰

辰

辰

そん

主領小十郎
奥津太田
西郡沙田
飯沼松吉

一 長谷川石守三郎小合のタ

口

まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ

五月分
二月分

山城守
七人のふん

口
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ

まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ
まゝの休ま合のタ

三月分
四月分
五月分
六月分
七月分
八月分
九月分
十月分
十一月分
十二月分

弘化二年八月

臨城

生井文成

竹口信

古語云、秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、
最も佳なり。又、秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、
此の四時、最も佳なり。又、秋は月、春は日、夏は雨、
冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、秋は月、春は日、
夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、秋は月、
春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、
秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。

古語云、秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、
最も佳なり。又、秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、
此の四時、最も佳なり。又、秋は月、春は日、夏は雨、
冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、秋は月、春は日、
夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、秋は月、
春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。又、
秋は月、春は日、夏は雨、冬は雪、此の四時、最も佳なり。

そん

言順小十郎
西郡沙口
飯富屋長安
江本昌也

一 事功史公年公合々

日 事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

事功史公年公合々

右 事功史公年公合々

を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を
を	を	を	を	を	を	を	を	を	を

右に而申四月五日同立月を巡り後持方
 と川系村より河年より又為親能時該名出
 所実の口は能いこと

大砂元 戊申年
 十月

晴子氏 下

河持持方
 河内藏

嘉永二己酉年
十月

信之藏

市校
市藏

小六
手書

一 松島合の町
永作
能合

九月

市校
市藏

8702
押
之
明治館文庫

嘉永二己酉年
土月

信之儀也

柳枝

所藏

六

人書附山信云

一
松雲今可謂吾所役所
作乃乃校防方之秋故
能合古法也

九月

德山寫

御書

所役所

Handwritten text on a narrow strip of paper, oriented vertically. The text is written in a cursive script and appears to be a list or a series of notes. The visible text includes:

1. *Handwritten text, possibly a name or title.*

2. *Handwritten text, possibly a date or a reference.*

3. *Handwritten text, possibly a name or title.*

4. *Handwritten text, possibly a date or a reference.*

5. *Handwritten text, possibly a name or title.*

6. *Handwritten text, possibly a date or a reference.*

7. *Handwritten text, possibly a name or title.*

8. *Handwritten text, possibly a date or a reference.*

9. *Handwritten text, possibly a name or title.*

10. *Handwritten text, possibly a date or a reference.*

第 八 卷 七 十 五
西 文

第 七 卷 七 十 五
西 文

第 六 卷 七 十 五
西 文

第 五 卷 七 十 五
西 文

第 四 卷 七 十 五
西 文

第 三 卷 七 十 五
西 文

第 二 卷 七 十 五
西 文

第 一 卷 七 十 五
西 文

第 一 卷 七 十 五
西 文

第 一 卷 七 十 五
西 文

8702

挿

2

群馬県立文庫

一 萬石 田中 氏 家 主

大月 日 中 氏 家 主

小月 日 中 氏 家 主

日 中 氏 家 主

但

大月 氏 家 主

年 中 氏 家 主 日 中 氏 家 主 日 中 氏 家 主

日 中 氏 家 主

公書清江集卷之六

一
秋風之起 柳絮之飛 清江集卷之六
作 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
秋風之起 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
清江集卷之六 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
清江集卷之六 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛

戊子月不日

清江集卷之六

柳絮之飛

三

西風之起 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
清江集卷之六 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
清江集卷之六 柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛

一
朱橋石上柳絮之飛

月

朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛

朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛
朱橋石上柳絮之飛 柳絮之飛 柳絮之飛

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

三木 三木 三木

何れも自ら思ふに人なりとて月つゝ成る事
古来未だ一に之を信ずる者も人衆なり
もて之を信ずる者も之を信ずる者も之を信ずる者も
之を信ずる者も

何れも自ら思ふに人なりとて月つゝ成る事

二人宛

うん
うん

五下口手

何れも自ら思ふに人なりとて月つゝ成る事
古来未だ一に之を信ずる者も人衆なり
もて之を信ずる者も之を信ずる者も之を信ずる者も
之を信ずる者も
何れも自ら思ふに人なりとて月つゝ成る事
古来未だ一に之を信ずる者も人衆なり
もて之を信ずる者も之を信ずる者も之を信ずる者も
之を信ずる者も
何れも自ら思ふに人なりとて月つゝ成る事
古来未だ一に之を信ずる者も人衆なり
もて之を信ずる者も之を信ずる者も之を信ずる者も
之を信ずる者も

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

石見

高

石 方 戸 門 前 へ 寄 附 せ
石 方 戸 門 前 へ 寄 附 せ
石 方 戸 門 前 へ 寄 附 せ

[illegible][illegible]

何處より来るか
何處より来るか
何處より来るか
何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

何處より来るか

[illegible]

子并之也

柳林村

五

商賈之

新嘉坡國書院藏

[illegible]

中村幸次郎
文政

是

西暦
明治
大正

一 明治二十九年六月

日

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

明治二十九年六月

飯後程書
 江島 作
 大か 庚 卯

一 長也 三 七 十 三 五 七 九 十

口

三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十
三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十
三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十
三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十	三 五 七 九 十

右 上 書 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十
 中 身 書 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十 三 五 七 九 十

十 五
 十 五

え

西郡
新本
ちん
那江

一 新本

新本

17

二 新本

新本

17

新本

17

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

新本

くらきくくくくくく
 くらきくくくくく
 くらきくくくくく

くらきくくくくく
 くらきくくくくく
 くらきくくくくく
 くらきくくくくく

くらきくくく
 くらきくくく

くらきくく
 くらきくく

くらきく

くらきくく
 くらきくく
 くらきくく
 くらきくく

くらきくくくくく

くらきく

是

何年
平也
中
而

一
少

口

少

二

少

三

少

四

少

五

少

六

少

七

少

八

少

九

少

十

石室中平月日
丁酉年十一月
丁酉年十一月
丁酉年十一月

十月

丁酉年十一月

丁酉年十一月

丁酉年十一月

丁酉

丁酉年十一月
丁酉年十一月
丁酉年十一月
丁酉年十一月

丁酉年十一月

丁酉

丁酉年十一月

丁酉年十一月

少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち

少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち

少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち

少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち

少斗ちちちちち
 少斗ちちちちち

そ

那波河原
平田原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原

一斗三石三斗二升

口

中河原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原
中河原

之

伊豆島内
少川河上
所心時

一、
木
石
土
火

口

七五ノ下ニあるニテ

七年の事

三

五ノ下ノ内ニ
シテハモトモ
シテハモトモ
シテハモトモ
シテハモトモ

七牛乃也

五

七少

三

七斗ハカチ

三

七斗

三

五十七

بر

七十八

三

七中

27

辛巳年

三

七十四

七十四

七十五

七十五

七十六

七十六

七十七
七十八
七十九
八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十

之市也

カキ

少子之成也

五

多

多子年

九

九斗字七

り月名を二重に書
けり

三

75

27

二

子

27

子

九斗

九斗之石

カキ

ちちを盛すもふもあまを月とてはねた月
 て川あけふは年方ふしりぬ酒をにけり
 ちちを盛すもふもあまを月とてはねた月

卷之四

陳氏

序

孝

相しとて言ひ得る事多し月より
来りし月よりと云ひ得る事多し
此れとて言ひ得る事多し

時

行 年 月 日

之

何福如曰
中興館主
張子侍名
海人原之

米極其名也

門
九年
九年
街
山
源
之
第
快

孫山源之印

手紙の上

一 杉とては昔の御殿の御事なり月よりか
来りし月よりとていふ事なり西の事なり
御殿の御事なりとていふ事なり

三月
竹名
竹下

竹下

てん

竹下
中川
竹下
竹下

一 米稻を名にす

口
九月
九月
九月

衛山集序

冬十為子年初次第

法在烟成元石教此題

二二二

二月

子方



樹山源之節秋

九斗
九斗
九斗
九斗
九斗
九斗
九斗
九斗
九斗
九斗

何れを以て其の爲に
 するに足らずや
 其の爲に
 するに足らずや

時

即存方

相公如升平年如新入高由勢多疑名是
所多能如久保府自是年古由傳長之十度
三度年交之新之計照自之長之之とと

上月

相公年

与乞
中
以
水

